

慶応二年

(二月)

正月元日

御式も御するくと御済せられ候。

(二月) 二日

殿様、御書初御式も目出度御済せられ候。終日遊ぶ。

(二月) 三日

此日、同断。

(二月) 四日

此日、遊ぶ。

(二月) 五日

御鏡開にて御賑々しき事也。

(二月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(二月) 七日

七草御祝あらせられ候。此日、宮原先生、駒子、御竹の子参殿。先生、駒子試筆、殿様も遊し候。先生、私宅耆間半四枚襖、四季詩認められ候。開き襖、わら筆にて大字認められ候。竹の子舞まい、御祝酒下され、四ツ時帰られ候也。

(二月八日〜十二日、日記ナシ)

(二月) 十三日

此日より、父さま、千世滝さま下坂致され候。

(二月十四日、日記ナシ)

(二月) 十五日

此日、千世丸様御祝あらせられ候様、蓮観院様仰せられ、表、奥、御祝酒下され大賑也。
*千世丸様(千重丸様)

(二月十六日〜十九日、日記ナシ)

(二月) 廿日

八ツ時、大坂より父さま、千世滝さま帰られ候。

(二月廿一日〜晦日、日記ナシ)

(二月)

(二月一日〜三日、日記ナシ)

二月四日

殿様、高辻様えならせられ、表五人、下男二人、私、御供いたし、殿様御席書遊し、私、書画認、御馳走戴、七ツ時、御帰殿遊され候。

(二月五日〜十三日、日記ナシ)

(二月) 十四日

三条永楽屋え屏風認二行、日暮帰り候。

(二月) 十五日

右方ニ輝女連て認物に行、日暮帰り候。

(二月) 十六日

此日、三条え行、昼時より帰殿いたし候。大坂行こしらへ物いたし候。

*こしらへ物(拵へ物)

(二月) 十七日

殿様、良姫さま、岩倉え成らせられ候。御留主中、大坂行相究り、殿様、良姫様と御同道にて加茂迄成らせられ、加茂より御別れ遊し、酔月え成らせられ、酔月にて御くし御直し遊し、人目に立ぬ様にして昼時より御出立遊し候。千世滝、父さま、私、しけ女、下部、先廻りして酔月え行、殿様御こしらへ済て帰られ候。御供、跡見右衛門、典膳、織部、監

物、民部、兵部、私、下男広吉、伊三郎、幸治。北海道行、伏見小道具屋え七ツ時御着、御一泊。

*究り(極り) *御くし(御髪) *こしらへ(拵へ) *跡見右衛門(跡見左衛門)

(二月) 十八日

青木晟治郎御供にて、五ツ時頃御出立伺に参ル。五ツ半時御乗船にて、四ツ半時頃八幡え御参詣遊し、八幡にて御小弁当いろく御馳走にておもしろき事也。殿様大御満足。七ツ時前、対州屋(敷)より大屋形にて御迎船参り、御召替あらせられ、桜之宮、樋之口、花満開にて十里長堤紅々白々、夥しき人也。遊船岸につなひて、当飲又は歌舞、実、世界の違ひ候様也。七ツ半時、対州屋敷え着、大御馳走也。

(二月) 十九日

朝、御船にて住吉え御参詣、安治川辺船御遊覧遊し、住吉迄の岸、御側の人々不殘船引おんとにて大賑ひ、住吉え御参り遊し、処々御遊覧、三文字屋御小休、夫より堺えならせられ、西然寺え御立寄、夫より波撰方々、妙国寺えもならせられ、夕景御船被召、此夜四ツ時過、屋敷え御帰りあらせられ候。

*西然寺(西念寺)

(二月) 廿日

雨中にて無御出門、私事、広吉連て木津え帰り候。七ツ時屋敷え帰る。殿様、浜屋敷えならせられ候。此夜、御当座兼題春旅、三更迄。御通夜する。此日、私、辻、井上え行、久々にて長座する。

(二月) 廿一日

屋敷ニ而殿様御席書遊し候。辻新三郎、後室お久の子、源蔵子、豊島氏外、屋敷の人々拝見いたし、真ニ感涙相流し舌を巻物斗也。

(二月) 廿二日

御船にて、高津、生玉、天王寺、夫より山つたひにて天下茶屋寺田善左衛門え御小休、御中飯。天幸え御立寄、種々宝物被遊御覧候。夫より木津唯専寺え御立寄、母ニも御逢遊し候。夫より難波新地見世物虎象御覧遊し、心齋橋より御船被召、夕暮、屋敷え御帰館。

*山つたひ(山伝ひ)

(二月) 廿三日

終日御帰りの拵也。七ツ時、御乗船、大家形ニ而屋敷より伏見迄送り候事。

(二月) 廿四日

昼時、伏見北国屋え御着船。夫より御輿二而、私御合乗、父さま駕にて御供、八ツ半時、酔月え御着、御迎二千世滝さま、おしけさま、近藤、新助、亀吉参り居り候。是より御くし直し、御帰殿被遊候也

*御くし(御髪)

(二月) 廿五日

終日草臥遊ぶ。

(二月) 廿六日

孔雀認ル。

(二月) 廿七日

同断。

(二月) 廿八日

同断。

(二月) 廿九日

同断。孔雀落製。

(三月)

三月朔日

朝より永楽屋え屏風認に行、日暮、帰殿。

(三月) 二日

同断。

(三月) 三日

同断。

(三月) 四日

同断。

(三月) 五日
同断。

(三月) 六日
同断。

(三月) 七日
同断。

(三月) 八日
片一方落製。

(三月) 九日
此日、永楽屋ふさ女え御祝、黒ぬり文庫三ツ入子、奉書半切百枚、扇子二本遣し候。

(三月) 十日
(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十一日
(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十二日
殿様、よし姫様、清水え御参詣、下川原酔月え御立寄、御中飯。酔月ニテ、御席上ニテ絹地大額酔月楼と御認ニ相成候。私事も席上いたし候。御供、跡見左衛門、典膳、北村、河合、林、山本、千世滝、私、しけ、ふき、きく、ふさ、下部式人。八ツ半頃御帰殿あらせられ候。

(三月) 十三日
およこめ相認ニかゝる。

(三月) 十四日
同断。終日、殿様御手習、教する。

(三月) 十五日
昼後より准后様、おきく様え御児をしみに御参り遊し候。殿様、良姫様、千世滝、花蹊、典膳、北村、河合、民部、山本也。早速准后様お逢遊し、御上御坐の間にて御目見遊し、

准后様御側ニ而御席書遊し、又々親王様御側にて御席書遊し候。皆々さま大御かん心あらせられ候。御上御手つから御末広、其外色々御拝領遊し候。
*をしみ(惜しみ) *かん心(感心)

(三月) 十七日

朝、三条茶久より、井上氏、おきた女滞留仕られ候ニ付、遊びに来られ候由申来り、私事行候而、暫咄して居り候処、民部子呼に來、急々御所より関東え被遣候ニ付、殿様御書二枚可認様申参り、夫ゆへ私早々帰殿いたし、お世話いたし候也。

(三月) 十八日

此日、殿様お児おしみ方々えあらせられ候。私事、御屏風つくりいたし候。
*おしみ(惜しみ) *つくり(繕り)

(三月) 十九日

終日御手習上ヶまいらせ候。私、元服いたし候。

(三月) 廿日

同断。

(三月) 廿一日

御所より殿様御用召ニ付、四ツ半時より御参りニ而、御上御前ニ而御席書沢山遊し、御褒美として品々御拝領遊し候。七ツ時、御帰殿遊され候。此日、御廟え参詣する。

(三月) 廿二日

御屏風ツ、クリいたし候。

*ツ、クリ(繕り)

(三月) 廿三日

御屏風ツ、クリいたし候。

*ツ、クリ(繕り)

(三月) 廿四日

御元服御拵物いたし候。

(三月) 廿五日

此日、同断。

(三月) 廿六日

御元服前日御シユライ、三条加冠、御着坐阿野、離髪風早、御式相濟候。三条西、沢三位。
*御シユライ(御修礼) *離髪(理髪)

(三月) 廿七日

朝五ツ時より御元服御式。夫濟せられ、三条西、風早御同道にて御所え御参り遊し、方々え御廻り遊し候。御客三条殿、阿野殿、高松親子、武者小路殿親子、花園、沢親子、万里小路殿。夜八ツ時濟せられ候。

(三月) 廿八日

此日、御客、樋口殿、万里小路殿、沢主水守、久丸さま、夜七ツ時也。
*沢主水守(沢主水正)

(三月) 廿九日

此朝、風早子上られ候。

(三月) 晦日

此日、手本認ル。

(四月)

四月一日

朝、父さまと同道にて土橋え行、榴二重棚一手前稽古し候て、其帰り懸小川え寄、帰殿いたし候。昼後、宮原え竹の子画のをしへに行、せんさい呼れ、七ツ時前帰り候。
*をしへ(教へ) *せんさい(善哉)

(四月) 二日

朝、宮原え稽古に行。

(四月) 三日

此朝、姉さま病氣二付、浪花え出養生に行れ候。民部子、広吉、供いたし候。私、富貴女、柳茶屋迄送り候。夫ヨリ兩人寺町迄帰り、花遊軒え行、昼飯してふら／＼と帰り、此時冷泉さまえ行、暫して帰り候。半切認ル。

(四月) 四日

朝、宮原先生え行、東山圭究面会いたし候。稽古して帰り候。昼後、杉山え行、暫遊ひ候て帰り候。八ツ時過よりこなた、太夫様、良姫さま、御二方さま御誕生日にて御祝酒下され候。

(四月) 五日

終日コテ／＼とくらし候。

(四月) 六日

朝、宮原え行、稽古して帰り候。

(四月) 七日

此日、風邪にて臥タリ起タリ。土橋来候て稽古する。

(四月) 八日

此日、父さま、兵部さま、叡山え参られ候て、七ツ時帰られ候。小川子来、短冊二枚認遣ス。

(四月) 九日

此日、風にて臥

(四月) 十日

同断。

(四月) 十一日

同断。

(四月) 十二日

千世滝さまより文来、追々病氣あしきよし申来り候。此日夜一更頃、人の喧譁声いたし候まゝ、新たち障子明て見れハ、御所御普進御小屋場火もえ上り、ひつくりいたし、夫より表起し、皆々火の側え行れ候。奥皆々、御上方、御召替遊し、次も召替して、御立退のかくこ致し候処、漸火沈り、先々安心の赴にて、御飯いたり大さハきいたし候事也。

*明て(開けて) *御普進(御普請) *かくこ(覚悟) *沈り(鎮り) *大さハき(大騒ぎ)

(四月) 十三日

又々風にて終日臥。此日、大坂え文差下し候。此日、絹地兜認ル。

(四月) 十四日

此日、風にて終日臥。

(四月) 十五日

此日、風邪にて臥。朝七ツ時、丸太町寺町出火、老軒焼。絹地兜認上ル。

(四月) 十六日

此日昼時、宮原え稽古に行候処、先生河内え行れ候而、不致稽古、竹のさま画の稽古教授して帰り候。

*教授(教授)

(四月) 十七日

此日も風さめかね、ねたり起たりしてくらし候。

(四月) 十八日

此日昼後、父さまと同道にて咄し聞に行、夕かた帰り候。

(四月) 十九日

此日もコテく〜とくらし候。此日、半切六枚いたし候。

(四月) 廿日

此日朝、御廟え参詣いたし候。此夜、おつや遊し候。

*おつや(お通夜)

(四月) 廿一日

此日、世界騒々しき様子也。夫ゆへいろく〜こしらへいたし候。

*こしらへ(拵へ)

(四月) 廿二日

此日、大坂より文来候。千世滝さま、風のねつうき候へとも、持病のやまいあしき様子也。

(四月) 廿三日

此日、宮原え稽古に行、帰り候。此日、大坂辻氏え御書出す。此夜、七ツ時迄読書。

(四月) 廿四日

朝、宮え稽古に行、帰り候。此日、殿様御書御認遊し候ニ付、終日御世話いたし候。夜読書。

(四月) 廿五日

朝、宮原え稽古に行、十八史略五にかゝる、頒新律令迄。帰り、此日、御寺御所より御頼半切山水認ル。夜二更二臥。此日、殿様御廻勤あらせられ、八ツ時後ニ御帰殿あらせられ候。

(四月) 廿六日

朝、宮原え行。充学士、此迄。此日、半切一枚認ル。

(四月) 廿七日

此日朝、宮原先生参殿、講訳致され候。

*講訳(講釈)

(四月) 廿八日

此日昼前より輝女連て樂樂屋え行、昼飯呼れ、夫ヨリ宮原先生え行、暫遊ぶ。いろ／＼咄して帰り候。八ツ時也。

*樂樂屋(永樂屋)

(四月) 廿九日

此朝、宮原え稽古に行候。為十六州。

(五月)

五月朔日

此日、大島、青木、参殿いたし候。大島御用ニ付帰国致され、御暇乞に参り候。夫ニ付鮮(空白)え行れ候まゝ、私え書画認頼候。此日、辻後室さまより文来。

(五月) 二日

此朝、千世滝さま、大坂より帰られ候(三)付、私、伏見迄迎ひに行候はつの処、此朝雨中にて不行。民部子、伊三郎連て行れ候。昼時、帰殿致され候。此日より絹地豎物不二越竜認にかゝる。

*はつ(筈)

(五月) 三日

此日、不二越竜認上ル。夫より絹地豎物瀑布山水認ル。此日、信敬院さま、御寺御所上藤藎さま、蓮観院さま、画見に成らせられ候。暫御遊ひ遊し候、又絹地豎物魚釣山水認にかゝる。此日、辻氏より便り有。

(五月) 四日

朝、宮原え御祝義持参して、いろ／＼書の相談いたし候。夫より帰り、豎物一枚認上、又絹地豎物シヤウキ認上ル。夜三更頃迄書認ル。此日、大坂より風呂敷包来。

*御祝義(御祝儀) *シヤウキ(鍾馗)

(五月) 五日

此日、絹地横物玉堂富貴認上ル。外、書認ル。

(五月) 六日

此日(以下、記述ナシ)

(五月) 七日

此日昼時、大坂木津泰天巳之助、源権源吉二人連ニ而来り、尾上松之助、李三瀬吉、退転いたし候二付、尋ねに來り候。夕飯して帰り候、此日、白紙山水認上ル。

(五月) 八日

此日朝より良姫さま象見物に成らせられ候。私、御供いたし候。摂津、刑部、しげ、下部亀吉ト也。雨中、象不見せ、知恩院え参詣して、酔月え寄、昼飯して八ツ時過迄遊ふ。夫より御帰参あらせられ候也。

(五月) 九日

朝、宮原え稽古に行、復立所製碑迄也。此日、からたあしく候て臥。

*からた(体)

(五月) 十日

朝、宮原え稽古に行、是為中宗皇帝迄也。

(五月) 十一日

此日、父さま大坂え下られ候。大坂かけ落物相しれ、右兩人連て帰られ候。

(五月) 十二日

此朝、宮原え行候。

(五月) 十三日

此(以下欠)

(五月) 十四日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 十五日

此日、近藤静順子上られ候て、千世滝病氣あしくゆへ、何分かいほうかんしんゆへと申され、私事、千代滝にかゝり居り候。此夜、雨にて水高く橋落候て、一宿致され候。
*かいほう(介抱) *かんしん(肝心)

(五月) 十六日

此日も千世滝病氣あしく候。静順さま、此日も一宿。

(五月) 十七日

此日も静順一宿。千世滝病氣あしく候。

(五月) 十八日

此日、静順さまとまられ候。

*とまられ(泊まられ)

(五月) 十九日

此日、父さま大坂より帰られ候。静順さま帰られ候。

(五月) 廿日

此日、宮原先生ヨリ御頼みの半切四枚認ル。此日、千世滝さまと同道にて御廟え参詣いたし候。

(五月) 廿一日

此日、雨中御廟え参詣いたし候。

(五月) 廿二日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 廿三日

此日昼後より来章先生え行、いろ／＼画拝見いたし、良久しく咄して帰り、三条え寄、夫より寺町え寄、日暮帰り候。

(五月) 廿四日

(コノ日、記事ナシ)

(五月) 廿五日

此日早朝より千世滝さま**ほよう**かてら四条芝居え行、終日遊ぶ。夕かた帰り候。

*ほよう (保養)

(五月) 廿六日

此日、書半切沢山認ル。平野神事の図認ル。

(五月) 廿七日

此日、短冊十枚認ル。

(五月) 廿八日

朝より千世滝病氣養生に大坂え帰られ候二付、私、きく、ふさ同道して行、父さま、伏見迄送りてもらい候。昼時、伏見着致し候。八百佐え行。船水高く候而、川崎辺より船不下よし申候二付、船大たんに候まゝ、夫より陸にて行。雨中、右の訳二而候まゝ、父さま、大坂迄送り下され候つもりに相成候。送中雨にて大困り／＼入候。**夕かた**、**平かた**魚市ト申宿やえ行、一宿する。

*夕かた (夕方) *平かた (枚方)

(五月) 廿九日

朝四ツ時、出立。八軒屋料理やえ着、八ツ時二候也。仕度候て、父さまヨリ一足は**や**女斗行候処、不斗道違大困り、漸女斗唯専寺迄帰り候。日暮也。夫ヨリ早々伊三郎、父さまを迎ひに行候道にて逢、父さま大心配、方々所々え尋歩かれ候よし也。先々御帰りにて安心いたし候。此夜一宿。

*はや (はやく)

(六月)

六月朔日

此朝、楚山先生え行、久々にて拝顔致し候。昼後ヨリ今宮山口え行、暫咄して、夫より天王寺、安井、清水方々遊覧、天下茶屋寺田え寄、天小えも寄、住吉え参詣致候。夕かた、堺西然寺行、一宿。

*西然寺(西念寺)

(六月) 二日

早朝、波濤え魚市見に行、遊ぶ。貝ひろふ。夫ヨリ帰り、酒肴にて三弦物聞、河久来、八ツ時より堺出立、妙国寺見物してふら〜行、住吉高灯笼ヨリうら道行、勝間の浦にて少々雨降、不斗長源寺え寄、茶、すもしなど出て、暫咄して帰り候。日暮後、唯専寺え帰り候。

(六月) 三日

此朝、楚山先生え行、いろ〜画の相談いたし、帰り候。八ツ時ヨリ出立、難波新地、心齋橋辺ふら〜步行、高麗橋山勘船に乗、七ツ時也。此時、ザマ出火、大さハき也。無事乗船いたし候。此時大雨中也。夫ヨリ船泛候処、益雨甚しく大困り〜。三島江の浜迄漸あやうき処無事に来候へとも、もはや船不登、市屋の浜にて上られ候へとも、宿もおもふ様してくれず、実に〜大困り、此時八ツ時也。夫ニ雨少々小降に相成、船出して淀まで着致し、夫ヨリ船不登、淀ヨリ上り、船宿にて仕度して陸行いたし候。ふさ女、少々あたり、駕にて追通し、此時朝五ツ時也。夫ヨリ昼時、東寺鳥羽屋にて昼飯して、(以下、記述ナシ)

*ザマ(座摩) *大さハき(大騒ぎ)

(六月四日〜廿九日、日記ナシ)

(七月、八月、日記ナシ)

(九月)

(九月一日、二日、日記ナシ)

九月三日

此日、岡崎香川景嗣の宅をかり、家移りいたし候。夜、私、輝女、一宿いたし候。翌日、帰殿いたし候。此家、安堂精軒の口繞て伊治地ヨリ世話被致候。此家、茶を楽しみ候には実に妙也。

*口繞て(口次て)

(九月四日〜十九日、日記ナシ)

(九月) 廿日

此日、千世滝大坂ヨリ帰り候。此日、帰殿早々岩倉御別荘え来り候。私事も岩倉に居り候て、此日、御本殿え帰り候。

(九月廿一日〜廿九日、日記ナシ)

(十月、十一月、日記ナシ)

(十二月)

(十二月一日〜廿四日、日記ナシ)

十二月廿五日

禁中様御崩御あらせられ、実に〜恐れ〜入候事也。東洞院新立も右の御事故、何時御発に相成候哉不相知候まゝ、大工日々セメ候て、漸廿九日節分の日、先々家移りいたし候。此日御発しに相成候。

(十二月廿六日〜三十日、日記ナシ)